

トラック輸送情報（平成16年6月分）

平成16年 9月 3日
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課
担当：高橋、荒木 内線28315
直通：03-5253-8342
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

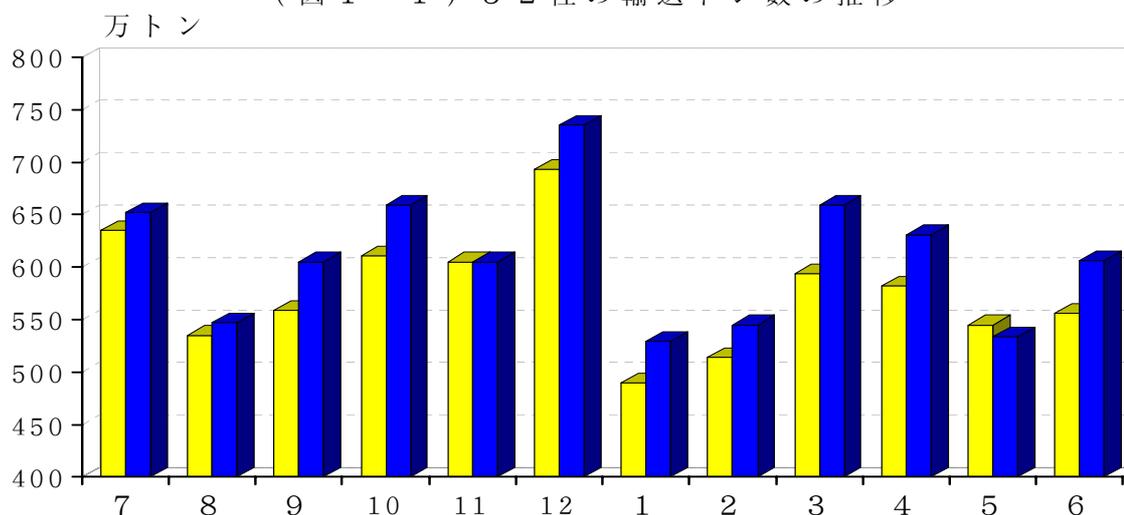
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

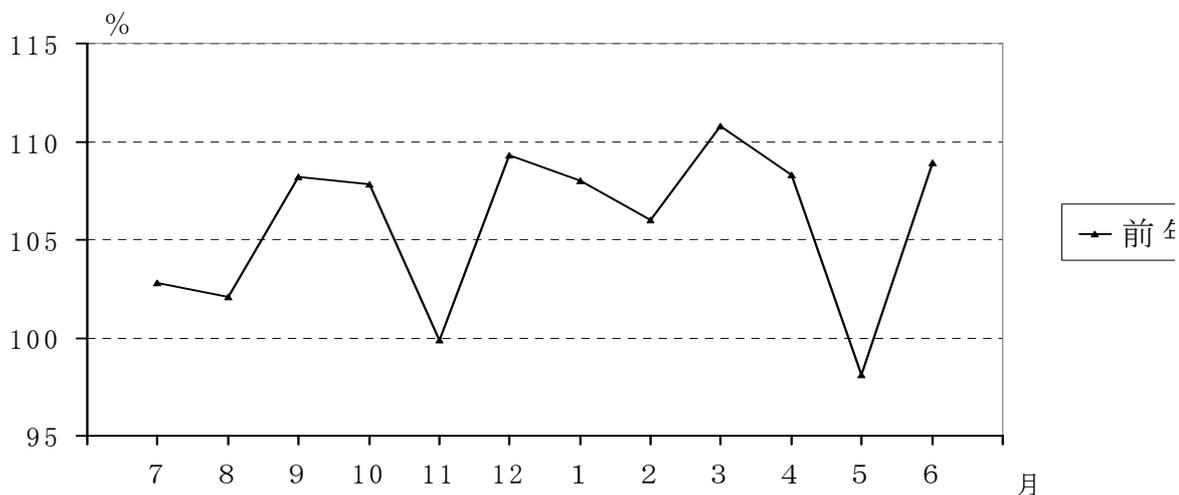
調査対象32社の本月の輸送量は、6,057,296トンで、前月と比べ、総輸送量が約72万トン増加したため、前月比113.4%（季節調整済み105.7%）、前年同月と比べると、約50万トン増加したため、前年同月比108.9%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、25.3日で、前月と比べ、3.5日の増加、前年同月と比べると、0.5日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、239,419トンで、前月と比べ、約6千トン減少したため、前月比97.7%、前年同月と比べると、約2万トン増加したため、前年同月比106.8%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

(図1-1) 32社の輸送トン数の推移



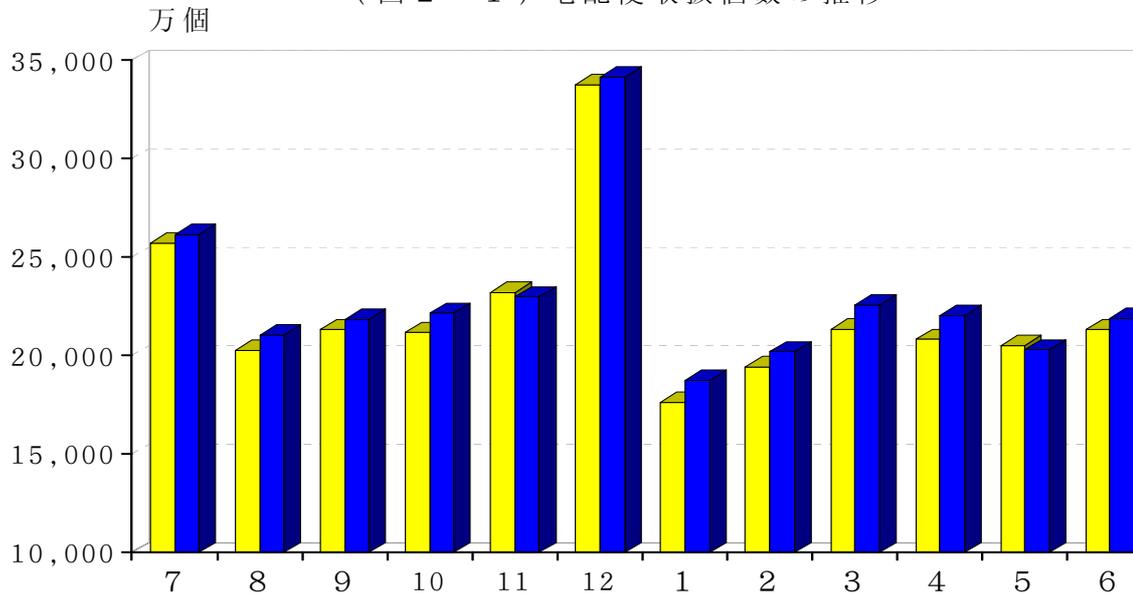
(図1-2) 32社の輸送トン数の前年同月比



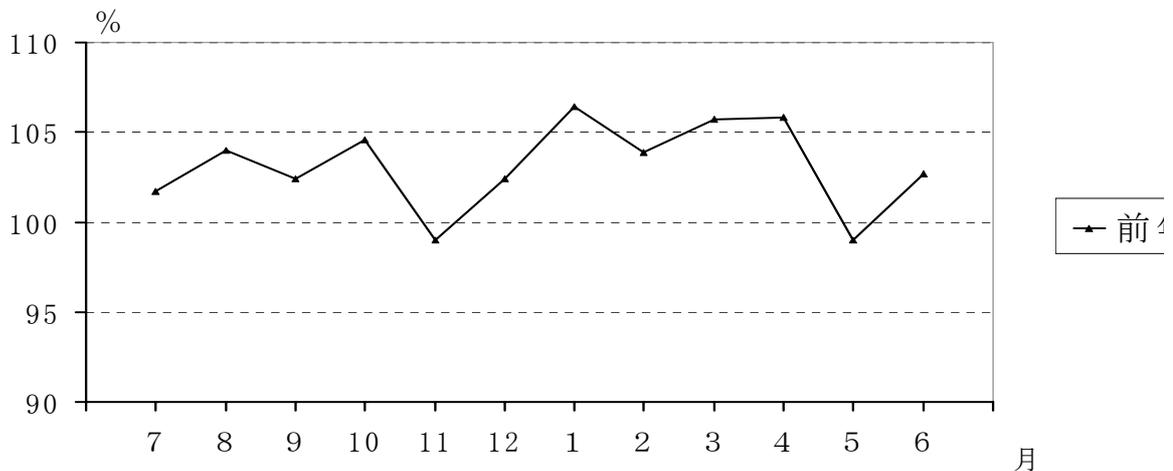
(2) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、218,952千個で、前月と比べ、約 1,596万個増加したため、前月比 107.9% (季節調整済み 102.8%)、前年同月と比べると、約 577万個増加したため、前年同月比 102.7%の実績であった。(図2 - 1、図2 - 2参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、6月は前月の大型連休により稼働日数が少なかったことに対する反動がみられ、ほぼすべての品目で輸送量の増加を示している。理由としてはほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増を主な理由としている。また、季節柄、食料工業品やその他(百貨店配送品)等はデパート等からの貨物増もみられた。地域的には農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に全国的に輸送の増加が見られた。農水産品は北海道、東北、中国、九州で輸送の増加が見られた。

前年同月と比べると、ほぼすべての品目で輸送量の増加を示した。理由としては前月比と同様、ほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増を主な理由としている。農水産品を除いて、景気の回復による輸送増も見られた。地域的には農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に全国的な輸送の増加が見られ、農水産品は主に九州に増加が見られた。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	減著				
前月に比べて	農水産品	2	5	10		野菜、その他農産品	北海道、東北、中国、九州	4
	金属製品	1	9	15	1	その他金属製品	関東、兵庫、近畿	4, 7
	機械	1	11	14	1	産業機械、電気製品、機械部品	東京、関東、大阪、兵庫ほか	4,7,8
	化学工業品	1	13	14		化学薬品、塗料、その他化学工業品	神奈川、関東、北陸信越、大阪、中国ほか	4, 7
	繊維工業品		7	21		織物、繊維	神奈川、関東	4
	食料工業品	1	19	7		加工食品、飲料、その他の食料工業品	東京、神奈川、関東、大阪、兵庫ほか	2,4,5,7,8
	日用品	2	15	10		書籍、文具、その他の日用品	東京、神奈川、関東、近畿、中国ほか	4,5,7,8
	その他	2	7	17		宅配貨物、百貨店配送品	東京、神奈川、関東、大阪、兵庫、全国	2, 8
前年同月に比べて	農水産品	1	4	11	1	野菜	九州	4, 8
	金属製品	1	5	17	3	建築用金属製品、工具	東京、神奈川、関東、大阪、兵庫、中国、福岡	3,4,7,9
	機械	1	9	16	1	建築用金属製品、工具	東京、神奈川、関東	4
	化学工業品	1	11	14	2	機械部品、電気製品、その他の機械	東京、神奈川、関東、北陸信越、大阪、兵庫	4,7,8,9
	繊維工業品		5	20	3	化学薬品、塗料、その他化学工業品	神奈川、関東、大阪、中国ほか	1,4,7,9,10
	食料工業品		17	9	1	その他の化学工業品	神奈川	4
	日用品	1	7	15	3	繊維、糸	東京、神奈川、大阪、兵庫	7, 9
	その他	1	4	18	3	繊維	関東、中部、中国	4
					加工食品、飲料、その他の食料工業品	東京、神奈川、関東、大阪、兵庫	4,5,7,8,9	
					印刷物、身廻品、その他の日用品	東北、東京ほか	4,5,7,9	
					衣類、文具	神奈川、関東	4,5,9	
					宅配貨物、百貨店配送品	東京、神奈川、大阪、兵庫、全国	2,4,5,8,9	
					宅配貨物、百貨店配送品	関東	7	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 851社 / 調査対象事業者数 1,080社）の輸送量は、前年同月比 102.3%、前月比 109.6%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.3%	101.2%	101.6%	102.6%	99.1%	104.7%	101.2%	106.5%	100.9%	104.3%	109.5%
前 月 比	109.6%	118.5%	107.5%	110.3%	109.0%	108.2%	105.9%	111.2%	103.9%	103.4%	111.5%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	各種工事が活発化してきたところに好天に恵まれ、「土砂・砂利」等の工事関連資材の輸送が順調に増加した等により、対前月比118.5%となった。一方、対前年同月比をみると101.2%と上昇したが大きな伸びではなかった。今後の輸送見通しは、工事関連資材の輸送量の維持が期待でき、上昇傾向で推移するものと思われる。
東北	本月は、「野菜・果物」が出荷時期により増加し、セメントを使用する工事も増え「その他の窯業品」も増加した。また、6月にしては気温が高い日が多かったことから、飲料物等の需要が増え「食料工業品」の増加となった。このため対前月比は107.5%、対前年同月比は101.6%であった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともほぼ横ばい傾向にある。
関東	本月の輸送は、農産物出荷時期や季節的な需要により、「野菜・果物」「食料工業品」の増加が見られた。また、「金属製品」「機械」「その他の石油製品」の輸送も増加したため、対前月比は110.3%、対前年同月比も102.6%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。
北陸信越	5月は大型連休に伴う稼働日数減もあり、翌月である本月の輸送は、対前月比は109.0%大きくプラスとなった。建設工事の増加により「砂利・砂・石材」「機械」の輸送が増えている。その一方で「その他の石油製品」等は暖かな気候になったことによる需要減に伴う輸送の減少がみられた。対前年同月比は99.1%とマイナスとなっている。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向にある。
中部	本月は大型連休のあった5月の翌月ということもあり、対前月比は108.2%と増加した。また、対前年同月比も104.7%と増加した。主な増加品目としては、「機械」が電子部品の需要が増えたことにより、また、「日用品」が季節的な要因により増加した。減少品目としては「その他製造工業品」が季節的な要因により、「揮発油」は工場・生産地からの貨物減により減少した。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも若干の増加が見込まれる。
近畿	本月の輸送は対前月比105.9%と増加した。これは先月の大型連休による稼働日数減の反動もあるが、品目別の輸送量を見ても全体的に増加傾向にあると言える。また、一部においては電子部品（液晶パネル）に関連した「その他の窯業品（ガラス）」の輸送増もあった。その反面、原油高騰のあおりを受ける形で「その他の石油製品」は減少となっている。前年同月比で101.2%と増加している。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいと予想される。
中国	本月の輸送は、大型連休のあった前月に比べ、稼働日数が増加したこともあり、「鉄鋼」をはじめとして全体的に輸送増が見られた。このため、対前月比111.2%と増加した。対前年同月比についても106.5%と増加した。今後の輸送の見通しについては、次月は上昇傾向にあるが、以降はほぼ横ばい傾向にある。
四国	本月の輸送は、対前月比103.9%の増加、また、対前年同月比は100.9%と微増であった。特に「食品工業品」が主として季節的需要によりビール・乳製品等の飲料を中心に増加したほか、「紙・パルプ」「日用品」「動植物性飼・肥料」などが増加した。一方、「野菜・果物」などが減少している。今後の輸送傾向については、次月はほぼ横ばいであるが、以降は減少傾向にある。
九州	今月の輸送は、前月と比べて稼働日数が多かったこともあり、輸送量は対前月比103.4%、対前年同月比は104.3%と増加した。品目別に見ると、飲料をはじめとするの夏向けの商品の需要が高まったことにより「食料工業品」「日用品」の輸送量が特に増加した。一方で、加工食肉の出荷量減少等の理由により「畜産品」の輸送量が減少し、出荷時期が終了した地域では「野菜・果物」の輸送量が減少した。今後の輸送量の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にある。
沖縄	本月の輸送は、「その他の農産品（切花）」「水産品（マグロ）」「取り合せ品（引越貨物）」が出荷終了等季節的な要因により輸送が減少したが、飲料を中心とした「食料工業品」の輸送需要増加が見られたため、対前月比では111.5%、対前年同月比では109.5%と増加した。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が見込まれる。

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	減	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
2. 野菜・果物	増	1	9	4	1	0	1	1	0	4	0	21
	減	0	1	1	0	0	1	0	2	7	0	12
3. その他の農産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	6
5. 水産品	増	3	0	0	1	1	1	1	0	1	0	8
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4
6. 木材	増	4	1	1	2	0	0	1	0	3	0	12
	減	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	21	3	1	3	0	0	1	1	2	0	32
	減	2	1	0	1	0	0	0	0	2	0	6
11. 工業用非金属鉱物	増	4	1	0	0	0	0	0	0	2	0	7
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
12. 鉄鋼	増	0	0	1	3	0	1	5	0	1	0	11
	減	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	4
13. 非鉄金属	増	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
14. 金属製品	増	0	2	3	3	0	2	0	0	3	0	13
	減	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	4
15. 機械	増	0	2	4	5	1	3	1	1	3	0	20
	減	0	0	1	3	0	1	0	0	3	1	9
16. セメント	増	4	3	0	1	0	1	1	1	2	0	13
	減	1	1	0	0	0	0	2	1	2	0	7
17. その他の窯業品	増	3	4	0	1	1	1	0	1	1	0	12
	減	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3

品目	運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	北	東	陸	中	畿	国	国	州	縄	国
		道			信	部						計
					越							
18. 揮 発 油	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
19. その他の石油製品	増	1	0	3	0	0	0	0	0	1	0	5
	減	2	2	1	4	0	2	1	0	2	0	14
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化 学 薬 品	増	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
22. 化 学 肥 料	増	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
23. その他の化学工業品	増	0	0	1	0	0	2	0	1	1	0	5
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
24. 紙 ・ パ ル プ	増	0	1	1	1	0	2	2	2	2	0	11
	減	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	5
25. 織 維 工 業 品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
26. 食 料 工 業 品	増	4	13	3	2	0	1	1	6	13	2	45
	減	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	5
27. 日 用 品	増	1	2	2	1	1	2	0	2	6	0	17
	減	0	0	1	0	1	2	0	1	2	0	7
28. その他の製造工業品	増	0	0	0	0	1	1	2	1	4	0	9
	減	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
29. 金 属 く ず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	4	0	1	0	0	0	1	2	2	0	10
	減	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	5
32. 廃 棄 物	増	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	3
	減	0	0	1	0	0	0	2	1	1	0	5
33. 輸 送 用 容 器	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
34. 取 り 合 せ 品	増	1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	5
	減	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	5
35. そ の 他	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2